

子供どうして一緒に遊べない、 大きい父親の役割

おかの さかえ
岡野 栄

連合・総合企画局長

中学校の運動会に自治会会長として招かれた際に、小学校の校長先生と同席する機会があり、いま小学校では何が一番問題ですかと聞いてみた。校長先生は、いまの子は子供どうして一緒に遊べない、集団生活が苦手なことだと話された。ひとりでテレビゲームをして遊ぶのは得意だが、子供どうして一緒に遊ばせると、少し遊んだだけで疲れるからやめたいと言う子が多い。なんとか集団生活に慣れさせるために、5～6年生をお姉さん、お兄さんがわりにして低学年の面倒を見させ一緒に遊ばせるようにしているが、先生が決めた遊びしかしない。子供たちだけで何をして遊ぶか決めることができない、と悩みをうち明けられた。

昔はガキ大将がいて、大きい子も小さい子も一緒にチャンバラなどして遊んだものと言ったら頷いていた。引き続き校長先生が話すには、最近の親も昔と違ってきているという。夏休み中に父親から、子供たちだけでナイターを見に行くと言っているが行かせても良いかとか、夏休み中の生活指導に関するガイドラインはないかとかの問い合わせがある。折角、子供どおしで計画を立てたのにどうして良いかわからない、親が判断を示せない。この種の問い合わせは結構多く、家庭のことは家庭で決めてくださいと

返事をしているとのこと。子供の躰まで学校任せかとあきれ果ててしまった。校長先生は、子供がナイターに行きたいと、突然、親に話をしたとは思えない。その前に何回かシグナルを送っていたと思う。しかし、日頃から親子のコミュニケーションがとれないとこんなことが起こってしまう。仕事が忙しいのはわかるが、朝食か夕食を一緒に過ごす時間をとり顔を合わせていれば、こんなことは起こらないと思う。それから学校の行事にはお母さんの顔ばかりで父親の顔をほとんど見ることがない。兎に角、父親には学校行事に参加して、じかに子供や学校のことを知って貰いたいと切々と語っていた。本当に校長先生の言うとおりで、自分も我が子の時は学校の行事は運動会を見に行っただけで返す言葉もなかった。

自治会の地域活動として、保育園から小学校、中学校の入学式・卒業式、運動会や夜間パトロールなどに参加する機会を得たが、あまりにも学校へ教育以外の負担をかけ過ぎているのではないかと感じた。一般論として学校と家庭と地域が一体となつてと言うが、学校に様々なしわ寄せをしているのはやはり家庭ではないか。その中でも父親の抜け落ちた役割が大きく影響していると思う。